2021年秋の大会

福島第一原子力発電所廃炉検討委員会セッション

1F 廃炉に向けた技術開発の現状
Progress of R&D for the decommissioning of The Fukushima Daiichi NPP

（1）公開シンポジウム報告

(1) Symposium2021 report

*中野 宏之[1]
[1]廃炉委運営タスク，東京電力ホールディングス株式会社

1. はじめに

福島第一原子力発電所廃炉検討委員会（以降、廃炉委）では、廃炉作業において解決すべき重要な課題の解決に向けて、廃炉の実施組織と積極的に意見交換を進めるとともに、多くの学協会と協働して、復興と廃炉を支援すべく積極的に取り組んでいる。また、課題を共有し広く意見を募る場として公開シンポジウムを毎年開催している（昨年度は新型コロナウイルスの影響で中止）。ここでは、2021 年 6 月 12 日に開催した第 5 回シンポジウムの概要を報告する。

2. シンポジウム報告

今回のシンポジウムは、「廃炉 10 年目の課題と展望　－より安全な廃炉に向けて－」をテーマに、座長を関村直人　廃炉委副委員長（東大）として、以下に示すプログラムで開催した。

シンポジウム「廃炉 10 年目の課題と展望　－より安全な廃炉に向けて－」
開催日時と方法：2021 年 6 月 12 日(土)　13:00～16:50　Zoom ウェビナー、
①廃炉貢献への感謝状贈呈
②廃炉委委員長からの挨拶と報告
③廃炉委から見た廃炉の現状
講演 1：廃炉における安全マネジメント－高田孝（東大）
講演 2：福島第一原子力発電所の廃炉に向けたロボット技術の現状と課題－大隅久（中央大）
講演 3：建屋の耐震性評価と維持管理－瀧口克己（東工大）
講演 4：事故炉における強度評価の考え方－鈴木俊一（東大）
講演 5：世界の事故炉の廃止措置（廃炉）と環境修復－柳原敏（福井大）
④コメンテーターと会場からの意見交換
課題への取り組み　目標達成までをどう進めるか
⑤閉会の挨拶

①～⑤の概要を以下に示す。

① 廃炉貢献への感謝状贈呈について

学術の実践に大きく貢献し、廃炉作業での技術の現場適用により難しい課題の解決に寄与され、安全かつ円滑な廃炉推進に寄与されたとして、福島第一原子力発電所 1/2 号機排気筒解体作業に従事された 2 名（沢田充佳氏（株式会社エイブル）、半澤大介氏（東京電力ホールディングス株式会社））に、廃炉委からの推薦に基づき、原子力学会長より感謝状が贈呈された。

② 廃炉委委員長からの挨拶と報告

宮野廣廃炉委委員長からは、廃炉委の活動の全般について報告した。これまではマスコミを通じての社会との対話に重きを置いた活動を進めてきた。これからは市民との直接対話にも取り組むとの方針が示された。

③ 廃炉委から見た廃炉の現状

廃炉各分野に対応する 5 分科会の技術検討の現状と展望について講演が行われた。内容のポイントは、講演のタイトルの通りである。なお、当日の講演資料は、日本原子力学会ホームページに掲載している。

④ コメンテーターと会場からの意見交換

日本原子力学会広報情報委員長（開催時）布目礼子氏をコーディネーターとして、コメンテーターに安藤淳氏（日本経済新聞社)、小林祐喜氏（笹川平和財団）をお迎えし、廃炉の課題への取り組みについて、技術的側面と社会的側面から意見交換を行った。技術的側面では、海外技術の導入は、またロボット技術開発において他分野との連携はどのようになっているか、貴重なデータ・事故のエビデンスの蓄積と保全はどうなっているか、などの意見に対して、海外との連携は広く十分に行われているが、ロボットなどは使用環境の条件が厳しく現状は海外技術の導入は必ずしもうまく行っていない、データの蓄積は重要と考えられ鋭意取り組みが始まっている、との説明があった。社会的側面では、社会とのコミュニケーションがうまく行っていない、学会として取り組むべきだ、との意見に対して、廃炉委としても積極的に社会、特に地元との対話に取り組んで行くと表明した。

⑤ 閉会の挨拶

座長から、まとめとして、学会で扱っている問題は public involvement（住民参加）が重要な課題であるととらえており、まだまだ取り組みが足りないが、他の学協会との連携も含めて取り組んで行かなければならない、と締めくくった後、閉会の挨拶があった。

3. まとめ

公開シンポジウムは、学会として分かりやすく情報を提供し、広く意見を募る場として毎年開催している。ここで得られた意見を、課題解決に向けた取り組みにつなげ、今後の支援活動ならびに廃炉事業に役立てていく。

なお、本講演資料は、セッション開始前に以下 URL に掲載予定である。

原子力学会 廃炉委 HP　https://www.aesj.net/aesj_fukushima/fukushima-decommissioning

*Hiroyuki Nakano[1]

[1] Tokyo Electric Power Company Holdings, Inc.